天

湖東・湖北

毎月第３日曜日発行

2026 5月号 Vol.198

毎日ナビ

毎日新聞湖北ブロック会　協賛
湖北ブロック会事務局（毎日新聞彦根城東販売所）
滋賀県彦根市地蔵町 120-105　TEL.0749-26-9673
制作 / オフィスいしやま（毎日新聞大津販売）

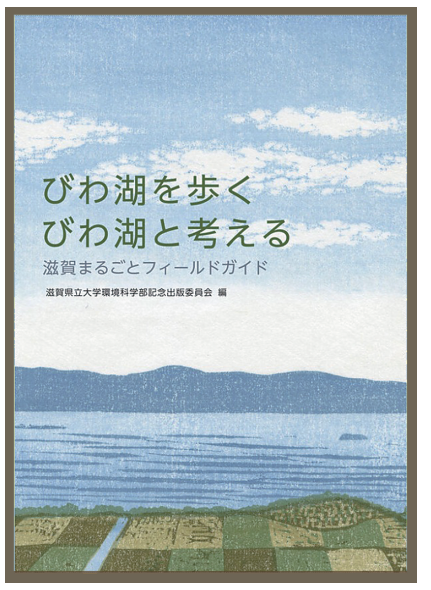
湖東

彦根

県立大が30周年記念出版
環境科学部の活動総括

県立大（彦根市八坂町）の環境科学部記念出版委員会は「びわ湖を歩く　びわ湖と考える―滋賀まるごとフィールドガイド―」（A5判、304ページ）を発刊した＝**写真**。県立大は1995年4月に開学し、日本初となる環境科学部が注目された。30年間の研究活動を総括し、県内の自然、社会、環境の現状を紹介しようと出版を企画。教員や卒業生らが計43本を寄稿し5章に分かれている。

第4章では大学オリジナル日本酒「湖風」が生まれた経緯を書いている。2010年に中国人留学生が喜多酒造（東近江市）で酒造り体験をしたのがきっかけで、大学ほ場のお米を使った日本酒プロジェクトが発足。翌年3月、若者にも飲みやすい大吟醸酒ができあがったという。発行元はサンライズ出版で税込み3520円。全国書店やネットで販売中。【彦根通信部・伊藤信司】



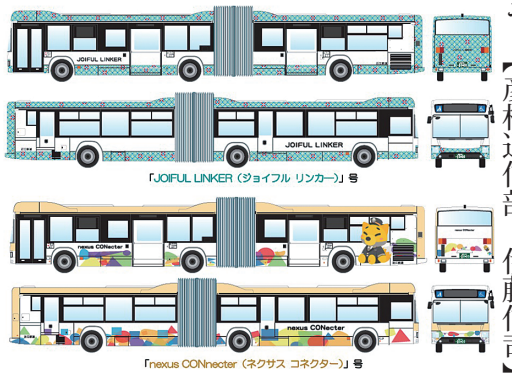
近江鉄道が連節バス２台導入
多様性表現の車体も

彦根

近江鉄道（本社・彦根市）は新たに2台の連節バスを導入した＝**イラスト**。4月から南草津駅―立命館大学間の直行シャトルバス（片道200円）として運行している。

全長約18メートル、全高約3・3メートルで重量は18・18トン。乗車定員は113人（うち座席39人）。1台は「ジョイフルリンカー」号で車体は七宝つなぎの模様となっている。青や緑色の中に、滋賀の県花「シャクナゲ」の赤を配している。もう1台は「ネクサスコネクター」号。つながっているバスの特徴から命名した。車体の模様や色はダイバーシティー（多様性）を表現しているという。

輸送力を高めて混雑緩和を図り、持続可能な地域公共交通の維持を目指している。さらに最近の乗務員不足にも対応し、1人の運転手で多くの乗客を運ぶこともできるという。【彦根通信部・伊藤信司】



湖北

長浜

「農福連携」のせんべい発売
国産米100％で3枚入り

発売された「きんひでせんべい」

長浜市常喜町の合同会社「TUNAGU」は、同社の農福連携ブランド「CHITOTETO（ちとてと）」から「きんひでせんべい」を発売した。同社が作業を委託する、障害者福祉事業などを行う認定NPO法人「つどい」のキャラクター「つどいのきんたろうちゃん」と長浜観光PRキャラクター「ひでよしくん」とのコラボ商品。

せんべいは国産米100％で、米の風味がしっかり感じられる厚焼き。両キャラクターを描いた箱の中に、厚焼きのり巻き、ざらめ、味しみかりの3枚が入っている。

特に味しみかりは自信作。特殊製法で、だししょうゆ味を染み込ませているという。包装作業などは知的障害者らが担当している。

1箱580円。えきまちテラス長浜や北近江豊臣博覧会おみやげ館小一郎などで販売している。【長浜通信部・長谷川隆広】

写真コンテスト　宮崎さん金賞
生命躍動「幸せの青い鳥」

長浜

県内外から133点の応募があった「湖北野鳥写真コンテスト」（湖北野鳥センター主催）の審査結果が発表され、長浜市南高田町の宮崎康治さんの作品「幸せの青い鳥」が金賞に輝いた＝**写真**。

宮崎さんは昨年2月23日に同市南浜町の湖岸緑地姉川河口公園でイソヒヨドリが飛翔する姿をカメラでとらえた。審査員から「フレームのように配置された木の無骨な質感と、イソヒヨドリの静ひつな青、柔らかく広がった翼のディテールに、対比と調和そして生命の躍動を感じさせられる」と高く評価された。

銀賞は愛知県春日井市、小川宏さんの作品「厳冬期に舞うイヌワシ幼鳥」、銅賞は京都府宇治市、和田雅之さんの作品「保護色抜群なんです」が選ばれた。

応募作品は5月18～29日まで長浜市役所1階ロビーで展示予定。【長浜通信部・長谷川隆広】